

2 0 2 3 年度 事業報告書

2 0 2 3 年 4 月 1 日から

2 0 2 4 年 3 月 3 1 日まで

学 校 法 人 大阪聖心学院

1．法人の概要

名 称 学校法人 大阪聖心学院（昭和30年12月16日法人設立）
代表者 理事長 小林 都代
住 所 大阪府松原市一津屋6丁目12番5号
電 話 072-336-9981
FAX 072-337-1021

設置する学校及び保育所

住 所 大阪府松原市一津屋6丁目12番5号
名 称 星の光幼稚園
住 所 大阪市旭区新森3丁目3番35号
名 称 新森幼稚園
住 所 大阪府松原市一津屋6丁目12番5号
名 称 カンガルールーム

役 員

理事長名 小林都代（理事5名 評議員11名 監事2名）
監 事 2名 任期 令和3年8月26日～令和7年8月25日
評議員 11名 任期 令和3年8月26日～令和7年8月25日
理事会 2回開催
評議員会 2回開催
職 員 60名（星の光幼稚園）
34名（新森幼稚園）
9名（カンガルールーム）

2．事業の概要

（ 星の光幼稚園 ）

《教育方針》

物事を自ら考え創意工夫する力、心身のバランス、やさしい心を柱とする。

《教育内容》

お外に出て体操を行い、園庭で元気に遊び、お部屋の中では絵本を読んだり、製作をしたり、椅子にもしっかり座って保育します。子ども一人ひとりの個性と能力を引き出すために 年少組から全員ギルフォード式及び Cito の英才教育を行い実績を上げていきます。遊びの中で楽しく学んでいく保育です。

そろばん、パソコン、書道、剣道、外国語、絵画、鼓笛隊、器楽合奏、日本太鼓などの保育時間内に特別活動を実施

《園児数》

	満3歳児		3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定 員			9	190	6	200	6	200	21	590
2021年度	2	59	7	151	5	152	5	154	19	516
2022年度	2	57	6	138	5	149	5	150	18	494
2023年度	2	52	5	119	5	138	5	149	17	458

《保育時間》

月～金曜日 午前10時～午後2時20分

《納付金》

保育料-----（3歳児） 年額428,400円（無償化分含む）

（4・5歳児）年額380,400円（無償化分含む）

教材費（全園児） 月額1,000円

《入園時の費用》

入園料（3歳児） 65,000円

（4・5歳児） 55,000円

入園検定料 2,000円

バス申込金（利用者のみ） 6,000円

《預かり保育》

愛和苑（月～金曜日）/午後2時30分～午後6時

スポット保育/午後2時30分～午後6時（1,000円/回）

早朝保育/午前7時～午前10時

夕焼け保育/午後4時30分～午後6時

夏期保育/午前10時～午後3時

年末年始年度末/午前8時～午後5時 就労証明書が必要

《行事予定》

春の遠足、日曜参観、青空遊び、プール、お泊り保育、音楽会、盆踊り、敬老参観、
秋の遠足、運動会、お店屋さんごっこ、社会見学、お遊戯会、クリスマス会、おもち
つき、展覧会、消防クラブパレード

《施設関係》

園地面積 8,295㎡、運動場面積 3,481.2㎡

《設備関係》

プロジェクター、

桶胴太鼓、かくにん君（送迎バス園児乗降確認装置）他

（新森幼稚園）

《教育方針》

明るく健康で心身共たくましく、自主的にかつ創意工夫する、人間味豊かな人間像を目指す。

《教育内容》

年齢、発達に応じた偏りのないバランスのとれた保育内容で、毎日いろいろな経験を

重ねながら、一人ひとりの個性を大切に育てる。

《園児数》

	満3歳児		3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定 員			3	80	3	100	3	100	9	280
2021年度		12	3	63	3	76	3	98	9	249
2022年度	1	23	3	75	2	63	3	76	9	237
2023年度	1	21	2	57	3	75	2	64	8	217

《保育時間》

月～金曜日 午前9時～午後2時30分

《納付金》

保育料（3歳児） 年額372,000円（無償化分含む）

（4・5歳児）年額338,400円（無償化分含む）

教材費（全園児） 月額1,000円

《入園時の費用》

入園料（3歳児） 60,000円

（4・5歳児） 55,000円

入園検定料 3,000円

バス申込金（利用者のみ） 6,000円

《預かり保育》

愛和苑（月～金曜日）／午後2時30分～午後5時30分

スポット保育／午後2時30分～午後5時30分（1,000円／日）

夕焼け保育／午後5時30分～午後6時30分

夏期保育／午前10時～午後3時

年末年始年度末／午前8時30分～午後5時30分 就労証明書が必要

《行事予定》

春の親子遠足、日曜参観日、社会見学、お泊り保育、盆踊り大会、夏祭り（お店屋さんごっこ）、敬老会、運動会、秋の遠足（おいも堀・みかん狩り）、発表会、おもちゃつき大会、クリスマス会、かるた大会、凧あげ大会、展覧会

《施設関係》

園地面積 1,367.30㎡、運動場面積 884.47㎡

《設備関係》

あんぱんまんスライダー、カラー複合機、かくにん君（園児乗降確認装置）他

（カンガルールーム）

《園児数》

定員19人	0歳児	1歳児	2歳児	園児数計
	園児数	園児数	園児数	
2021年度	1	6	12	19
2022年度	1	6	12	19
2023年度	1	6	12	19

《職員構成》

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	6名
事務員	1名

《事業報告》

能登半島地震のインフラ回復が進まない中、愛媛・高知で震度6弱の地震が発生し、南海トラフ地震が想起された。4月末にはインドネシアのルアング火山の噴火があり、地殻変動の活動期にはいったような状況が続いている。災害への対応を常に意識しなければならない。

また、国立社会保障・人口問題研究所から将来人口の警鐘が繰り返し発信されている。2023年の出生数が過去最少の75万8631人となり、「こども誰でも通園制度」の実施が示されたことは、園児獲得が、自助による自らの努力しかない、行政に頼ることは出来ない状況に一層進んだものと考えられる。園児募集については、預かり時間を重視するのか、英語教育等特色ある教育内容を重視するのか、無償化の範囲だけの納付金とするのか？地域事情を踏まえた上、当園の特徴を最大限、浸透させポイントを絞った募集を図ることを思考している。スマートフォンに対応したホームページ作りを充実しながら、丁寧な情報発信をしながら進めることとする。更に、未就園児クラスの充実及び満3歳児入園者の獲得が一層重要になっているので、通年募集の体制に取り組むこととする。

特別支援児への対応をするため、非常勤教職員の確保に努めているが、思うような配置が整わず、クラス運営に支障がでないよう慎重に対応しているが、教職員採用が厳しい状況は変わらず、離職者を出さないよう職場の雰囲気向上に努めながら、教職員組織を安定させることに傾注している。

2025年4月を目途に私立学校法の改正に伴う寄附行為の変更認可申請を行うことになるので、8月頃には、変更案を取りまとめる必要がある。2015年4月より子ども子育て支援新制度がスタートしたが、移行が進み、2024年4月では、7割近い園が新制度に移行し、133園が私学助成で事業の継続を予定している。

自己評価については、確実に実施し公表しているが、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で十分検討して頂き、別紙のとおり纏め公表に努めた。

財務面では、事業活動収支計算書より、星の光幼稚園では、教育活動収入計が319,150千円（対前年比▲5.89%、339,119千円）、教育活動支出計366,292千円（対前年比▲1.84%、373,156千円）、教育活動収支差額▲47,141千円（前年度▲34,036千円）、教育活動収支差額比率▲14.1%。

77%（前年度▲10.04%）、経常収支差額比率▲14.78%（前年度▲10.04%）となった。また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、62.52%（前年度57.77%）となり、前年度より上昇した。

新森幼稚園では、教育活動収入計が156,149千円（対前年比▲12.21%、177,859千円）、教育活動支出計175,641千円（対前年比▲0.56%、176,634千円）、教育活動収支差額▲2,458千円（前年度▲2,590千円）、教育活動収支差額比率▲12.48%（前年度0.69%）、経常収支差額比率▲14.06%（前年度▲0.77%）となった。また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、62.83%（前年度、52.31%）となり、前年度より上昇した。

カンガルールームでは、教育活動収入計が40,974円（対前年比▲8.58%、44,820円）、教育活動支出計38,997千円（対前年比▲15.27%、46,023千円）、教育活動収支差額1,976千円（前年度▲1,203千円）、教育活動収支差額比率4.82%（前年度▲2.68%）、経常収支差額比率4.28%（前年度▲3.21%）となった。また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、57.75%（前年度61.88%）となり、前年度より低下した。

学園全体では、経常収支差額▲67,353千円（前年度▲36,838千円）、経常収支差額比率▲13.05%（前年度▲6.56%）の経営状況になった。翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第4号基本金）を有しているので、資金繰りは問題ない。

3. 財務状況